



2009年3月

# さくら

発行：偕行会透析医療事業部 さくら編集委員会

## シャントについて パート2

偕行会 セントラルクリニック 岡本 喜美子



みなさんこんにちは、セントラルクリニックの3階透析室に勤務している看護師の岡本です。昨年は傍島先生、先月号では伊藤先生がシャントについてお話をされています。そこで今回は、スタッフの立場からシャントを大事にし、より良い透析を受けていただくためのお話をしたいと思います。

シャントに何らかの問題（閉塞・感染）が起こった場合、シャントに針がさせなくなり、透析が出来なくなります。透析が出来ないと、体調も悪くなりますし、命に関わることにもなりかねません。そこで、セントラルクリニックでは、シャント委員会・感染委員会といった会があり、その担当のスタッフを中心に、皆様のシャントを守る為に活動しています。

例えば針を刺すときにスタッフより「狭窄音（木枯らしのような音）が聞こえる」「皮膚が硬い」と言われたことはないでしょうか。これはシャントに何らかの障害が始まっている可能性があります。患者様自身で気をつけることでこれらのことが防げることがあります。

